

## 令和7年度第1回松江市総合計画審議会会議録

- 1 日時 令和7年11月17日(月) 15時00分～16時30分
- 2 場所 松江市役所 本庁五階 第一常任委員会室
- 3 出席者
  - (1) 委員  
田部長右衛門会長  
麻田香里委員、石飛秀人委員、植田裕一委員(代理：西村彦昭氏)、黒目敏行委員、  
鷗鷯 侑委員、佐藤尚士委員、竹田尚子委員、武部幸一郎委員、 広野正充委員、  
舟木菜子委員、細田眞司委員(代理：河原賢氏)、松村健次委員、三代愛華委員、  
宮川芳樹委員、宮下裕一委員、山中 茂委員
  - (2) 事務局  
上定昭仁市長、松浦理事(政策部長)、周藤政策企画課長、浅野政策企画課政策  
係長、高尾主任、立脇副主任、種野副主任、梶谷副主任
- 4 議題  
議事
  - (1) 松江市の人口動態について
  - (2) 令和6年度松江市総合計画の実施状況について
  - (3) 令和6年度地方創生関係交付金事業の実施状況について報告
  - (1) 令和6年度物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の効果検証について
  - (2) 松江市SDGs推進の現状について
- 5 会議経過  
別紙のとおり
- 6 所管課等  
松江市政策部政策企画課  
電話 0852-55-5173

(別紙) 会議経過

## 1 開会

### 事務局（浅野政策係長）

ただいまより「令和7年度第1回松江市総合計画審議会」を開催いたします。本日の会議は「松江市情報公開条例」及びそれに基づく「審議会等の公開に関する要綱」の規定により全て公開にて行います。また、会議録作成のため録音をさせていただきます。会議録は、当審議会の事務局である政策企画課で作成し、会議経過として、発言者名と発言の要約を記載するものとし、また、出席された委員全員に個別に文書で承認を得たうえで、確定します。会議資料と議事録は、本市行政資料コーナー及び市ホームページで公表させていただきます。本日の会議は概ね16時30分を終了予定としておりますので、円滑な進行にご協力をお願いします。

## 2 市長あいさつ

### 上定市長

本日は、ご多用のところ「令和7年度第1回松江市総合計画審議会」に、ご出席いただき誠にありがとうございます。また、2年間の委嘱期間で審議会の委員を受けていただきお礼申し上げます。

松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」を令和4年3月に策定し、今年で3年半経ち来年4年目を迎えます。これまでの3年半を振り返ると、コロナや災害の頻発、また、物価高騰により政府からの補助金交付を受けてからの支給など、守りを固める必要があった3年半であったと振り返ります。

その一方で、松江市として総合計画をしっかりと実行し、前向きな将来への投資をしてまいりました。例えば、MATSUE起業エコシステムを立ち上げたり、医療総合支援を強力に進めてまいりました。

また、環境分野の取り組みとして、脱炭素先行地域、SDGs未来都市を取得し、堀川遊覧船の電動化をはじめ、まつえ環境市民会議の皆様と新たな取り組みを実施しました。

子育て支援については、相当力を入れた結果、30代の人口の社会増が実現できました。日経新聞が毎年発表している「共働き子育てしやすい街ランキング」で、中国・四国地方で2年連続で2位となり、全国では47位となりました。

そのような取り組みを進めてきたことが、少しずつ成果として表れてきています。今年はチーム松江市が誕生してから20周年、松江城が国宝指定を受けてから10周年の節目になります。そして、先般NHK朝の連続テレビ小説「ばけばけ」がスタートしました。まさに千載一遇のチャンスであると認識し、市民の皆さんがこの地に愛着や誇りをさらに持ち、その魅力を全国・世界へ発信する年にしたいと思っております。

今回は、令和6年度総合計画の進捗についてご報告させていただきます。また、今後の方向性を見定めていくために、皆様から忌憚のないご意見を賜りたいと思っております。

総合計画に掲げております一番高い目標は「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」です。これは不変なものとして2030年まで継続していきたいと思っております。まだその端緒が見え始めてきたところですので、そこを確かなものとしていき、こども達がここに生まれて育ってきたことに誇りを持ち、将来の夢を叶えながらこの地に貢献していきたいと思えるような循環を生み出していくための総合計画でありたいと思っております。

皆様からご意見をいただきまして、さらに歩みを進めてまいりますのでご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

### **3 委嘱状の交付**

#### **事務局（浅野政策係長）**

続きまして、「委嘱状の交付」でございます。本来ならば委員の皆様お一人おひとりに委嘱状をお渡しすべきでございますが、本日は限られた時間でございますので、進行上、委嘱状をお手元に置かせていただいております。ご了承ください。

また、委員の皆様のご紹介につきましても、大変失礼ながら、お手元の委員名簿にてご紹介に代えさせていただきます。任期は2年となっております。ご多用とは存じますが、よろしくお願いたします。

次に、欠席の委員をご報告します。松江市総合計画審議会名簿、No. 4 国立大学法人島根大学 金山富美（かなやま ふみ）委員、No. 6 株式会社サカタ 坂田健一（さかた けんいち）委員、No. 12 島根県農業協同組合くまびき地区本部 中村隆（なかむら たかし）委員、No. 17 松江市町内会・自治会連合会 松本光弘（まつもと みつひろ）委員から欠席の報告がありました。

また、本審議会では、代理出席にかかる要綱を定めております。あらかじめ代理出席の申し出がありましたので報告します。名簿No. 3 松江旅館ホテル組合 植田裕一（うえだ ゆういち）委員に代わり、西村彦昭（にしむら ひこあき）様に、名簿No. 15 一般社団法人松江市医師会 細田眞司（ほそだ しんじ）委員に代わり、河原賢（こうばら さとし）様に、ご出席いただいております。

### **4 審議会成立宣言**

#### **事務局（浅野政策係長）**

続きまして、「審議会成立宣言」です。本日の審議会は、松江市総合計画条例第8条第2項の規定により委員の半数以上が出席となっておりますので、成立していることをご報告いたします。

### **5 会長の選出**

#### **事務局（浅野政策係長）**

続きまして、「会長の選出」についてですが、本審議会の会長は委員の互選によって定められております。会長の選出にあたりまして、皆様からご推薦等はございますでしょうか。無ければ、事務局にて案を持っておりますが、ご提案させていただいてもよろしいでしょうか。＜委員賛同＞ ありがとうございます。

それでは事務局からご提案いたします。

松江地区商工会・商工会議所連携協議会 会長の田部長右衛門委員に会長をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。＜委員賛同＞ ありがとうございます。

それでは、会長は田部委員にお願いします。

田部会長、正面の会長席に移っていただきますようお願いいたします。

### **6 会長の職務代理者の選任**

#### **事務局（浅野政策係長）**

続きまして、「会長の職務代理者の選任」についてですが、条例で会長が指名することとなっております。田部会長、ご指名お願いします。

## 田部会長

それでは、私の方から指名させていただきます。会長の職務代理者は、島根大学 理事の金山 富美（かなやま ふみ）委員にお願いしたいと思います。本日は欠席ですので、事務局から後ほど依頼してください。皆様よろしくお願いたします。

## 事務局（浅野政策係長）

ここで田部会長から一言ごあいさつをいただきたいと思いますので、田部会長よろしくお願いたします。

## 7 会長あいさつ

### 田部会長

ただいま会長に推薦をいただきました田部長右衛門でございます。皆様本日はどうぞよろしくお願いたします。最初から委員をやっていた方、または今回より変わられた方等おられると思います。市長と一緒に総合計画を作成しましたが、実際、実現できている部分と、そうでない部分があると思います。このままではよろしくないと思っておりますので、皆様のご意見をもって日々進化し、新しいものになっていかなければいけないと思っております。そのために、この審議会がございますので、この現状で松江市が抱えている問題は5年前とは変化しておりますし、まちの様子も同様でございます。その中で世間の世相も変化し、ニーズと時代背景に沿って計画書も変わっていかないといけない。そういう点では、皆様の責任もある意味重大になります。積極的にご発言いただきますようお願いいたします。

## 事務局（浅野政策係長）

田部会長ありがとうございました。

では、これからの議事進行につきましては、条例第8条第3項の規定により、会長が議長となることとなっておりますので、以降の進行を会長にお渡ししたいと思います。よろしくお願いたします。

## 8 議事

### 田部会長

早速ですが、議事に移ります。議事（1）～（3）について、事務局からまとめて説明をお願いします。

## 事務局（周藤政策企画課長）

それでは、事務局から議事（1）～（3）を一括して説明します。時間の都合上、事前配布資料から委員の皆様事前にいただいた質問に対する回答を盛り込ませていただきながら、抜粋して説明させていただきます。その他にいただいたご質問ご意見と市の考え方について、詳しくは追加資料として配付しております。

また、事前資料の配布が遅くなりまして、ご確認・ご意見、お返しいただく時間が大変短くなってしまったことを改めてお詫び申し上げます。大変申し訳ございませんでした。

それでは、会場前方画面、またはお手元のタブレットの「議事資料」をご覧ください。

## 議事(1)「松江市の人口動態について」説明

資料1をご覧ください。

松江市の人口は2000年にピークを迎え、2020年には約8,000人減少。本年、国勢調査の年ですが、20万人を切るのではと予想されます。

社会動態の推移として、2017年以降は転出超過が続いておりますが、30歳代については近年、社会増に転換し、その増加幅も年々拡大、15～24歳は就学・卒業を理由に転入超過となっています。また、U・Iターン者も少しずつ増加しています。

事前に宮川委員より年代別・移動理由別移動者数で男女差、過去との比較による変化があるかどうかご質問をいただきました。男女差については、「転勤」の50代で女性が転出超過、男性が転入超過という違い、令和5年、令和6年の比較では、「就学・卒業」の20～24歳、「転勤」の50～59歳で令和5年は転出超過でしたが、令和6年は転入超過となっておりますが、この要因分析には至っていません。

自然動態では2004年以降20年連続で死亡数が出生数を上回る状況が続き、2024年は1,496人の自然減。合計特殊出生率も低下し、現状最新の数値が出ている2023年は1.41と15年ぶりに1.5を下回る結果となっております。

## 議事(2)「令和6年度松江市総合計画の実施状況について」説明

資料2をご覧ください。

はじめに本市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」では施策ごとに成果を表す指標 KPI を設定しています。本審議会では昨年度の KPI の実績をもとに評価検証を行います。

評価方法としては、例年当該年度の目標値に対して達成状況を比較し検証してまいりましたが、今年度が計画策定から4年目（今年度までの4年間の実績は含んでいないもの）で、8年間の計画の折り返し地点でもありますので、8年のうち昨年までの3年間で最終目標年である2030年、つまり2029年度末時点の目標値と比較し、達成率が80%以上であれば「達成」そうでなければ「未達成」の2区分で評価しています。目標値、実績値の把握が困難で「評価対象外」としたものを除き、評価した KPI 総数は108項目です。

それでは5つの基本目標ごとに主な達成 KPI、未達成 KPI と結果分析、課題、今後の方向性について抜粋して説明させていただきます。

「しごとづくり」です。

評価した KPI 20項目、そのうち達成率80%以上は7項目です。主な達成 KPI として「市内ソフト系 IT 企業売上高」が挙げられます。これは、県全体の売上高の伸び率を上回っており、「Ruby City MATSUE 2.0」と「MATSUE 起業エコシステム」を連携し進めている事業化支援である「MATSUE Tech-product Award」などの取組みが一定の成果につながったと分析しています。

一方伸び悩んでいる KPI としては観光振興関連の3つが挙げられます。コロナ禍前の令和元年比で約8割程度まで回復しているものの、全国の主要な観光都市と比較すると低調です。

「観光入込客数」については、「ばけばけ」放映という千載一遇の契機を活用した誘客促進、事前に舟木委員より、この「誘客促進」、具体的にはどのようなことをやるのかというご質問がありましたが、例えば、熊本・静岡といった八雲ゆかりの地等で開催されるイベントにおけるブース出展、また12月8日からカラコロ工房、12月26日から松江歴史館に

て、ドラマに関連する展示を行う予定としており、いらっしゃった方にドラマの世界観を楽しんでいただくとともに、実際に八雲とせつのゆかりの地を巡っていただき、松江の魅力を存分に味わっていただくことで満足度を高め、さらなる誘客に繋げたいと考えております。

「観光宿泊客数」については、「松江水燈路」、ドローン飛行など進化を続ける「松江水郷祭」など夜の賑わいを創出するコンテンツにより、宿泊客数の増加及び夜の消費喚起を図ります。

また、「外国人観光宿泊客数」については、国内全体でみると訪日外国人は増加していますので、「インバウンド観光推進事業」により、事前に石飛委員からご意見があったとおり、米子空港をゲートウェイとし、以前からの重点市場である韓国・台湾に向けての国内外の旅行会社への営業、商談会参加など商品造成を促進するとともに、SNSを活用した情報発信に加え、インド、フランス、アイルランドへのトップセールスにより誘客を図ることとしております。

これらを踏まえ、「NEXT ACTION」としては「地域産業・地域経済の活性化～起業・創業に向けたチャレンジを後押し～」といたしました。

引き続き「MATSUE 起業エコシステム」と松江ならではの「Ruby City MATSUE 2.0」の取組みにより、事業化支援や新事業創出支援を実施することで、起業・創業を支援するとともに、「チャレンジショップ支援事業」により商工会議所・商工会と連携し、出店計画作成から伴走支援までおこなうことで、新規出店を支援してまいります。

続いて「ひとつづくり」です。

評価したKPI 37項目、そのうち達成率80%以上は20項目です。

主な達成KPIとして「固定的な役割分担意識にとらわれない市民の割合」が挙げられ、全国調査の平均より高い数値で推移しています。要因としては、本市では女性の就業率が高く共働き世帯が多いため固定的役割意識の解消につながっていると考えられます。引き続き、出前講座による啓発活動等により意識醸成に取り組んでまいります。

KPI「子育て支援策の満足割合」については、「まつえの子育てAI コンシェルジュ」「保育所AI入所選考システム」などのDXを駆使した便利なサービスと「こども家庭センター」によるアナログのきめ細かいサービスを提供しており、日経新聞社と日経BPの「共働き子育てしやすい街ランキング」では2年連続中国・四国地方で2位にランキングしており、一定の評価をいただいていると認識しています。

宮川委員からも事前にご質問いただいた8割に届かない理由ですが、アンケートに回答していただく対象が、子育て世代と限定せず18歳以上から高齢の方まで幅広い方となっているため、「分からない」という回答が占める割合が多くなっていることがKPIを達成できていない要因の一つと考えられます。

アンケートの取り方について実際の子育て当事者の満足度を測れるように検討してまいります。また、アンケートで「本市の子育て支援策を評価する際に考慮する項目は何か」訊いた結果として、経済的支援（保育料の軽減、医療費助成など）を考慮されている方が多数を占めておられます。これは、財源の潤沢な東京などと比べると満足するレベルにないという結果だと受け止めています。本市としては、子育てに必要な経済的支援が自治体の財政力によって地域差が生じるのは望ましくなく、国が責任を持って取り組むべき課題と考えており、引き続き要望を行ってまいります。

先ほどアナログの支援で申し上げた、妊娠期から子育て期にわたり、妊産婦、子育て世帯、こどもたちに対する相談支援をワンストップで担う「こども家庭センター」について

は、設置義務を1年前倒しし令和5年4月に新設していますが、児童虐待やこどもの貧困などの事案が発見しやすくなり、速やかかつ効果的に対処できるようになっています。

「NEXT ACTION」としては「誰もがいきいきと活躍できる社会～安心・楽しく子育てできる社会の実現～」といたしました。

引き続き、DXを活用した各種手続きのオンライン化を拡充して行政手続きの負担の軽減を図るとともに、今年度は、医療費助成の対象を高校生世代まで拡大し、子育て世帯の経済的負担の軽減を図っているところです。引き続き、誰もが安心してこどもを育てられる環境を整備してまいります。

続いて「つながりづくり」です。

評価したKPI19項目、そのうち達成率80%以上は11項目です。

主な達成KPIとして「移住コンシェルジュのサポートにより定住した人数」が挙げられます。首都圏での移住定住フェアが好調であること、また、移住コンシェルジュによる各希望者に寄り添った移住相談、仕事紹介が定住者増加の大きな要因となっていると分析しています。

また先ほど人口動態に関する説明の際に申し上げたとおり、本市は2021年から30歳代が社会増に転じており、以後増加幅も拡大していますが、この成果にもつながっていると考えています。

達成できなかったKPIとしては「関係人口にまつわるイベントや交流会、講演会などに参加した人数」が挙げられます。島根県や定住財団など他機関においても関係人口にまつわる若者を対象としたイベントが増加傾向にあり、若者の取り合いになっていることで、参加者の確保が難しい状況と分析しています。より魅力的な、若者に刺さるプログラムを増やすことで参加者数の確保を目指してまいります。

「NEXT ACTION」としては「MATSUEブランドの確立～世界に誇るユニークな地域資源の活用～」といたしました。

昨年12月に官民が連携して設立した「小泉八雲・セツのドラマをイカしてバケる松江推進協議会」を主体に、ロゴマークを考案・活用した誘客戦略を展開してまいります。

また、島根スサノオマジックのホームアリーナとして、2025年8月より松江市総合体育館の改修に着手しております。5,000人のブースターが楽しめるホームアリーナにバージョンアップすることで、関係人口の創出につなげてまいります。

続いて「どだいづくり」です。

評価したKPI29項目、そのうち達成率80%以上は12項目です。

主な達成KPIとして「歩行者・自転車通行量」が挙げられます。職人商店街創出事業により職人の手仕事の「観える化」「ものづくり体験」ができる店舗の創出、令和5年度から始まった「土曜夜市」の定着、空き家店舗の活用などにより、中心市街地に賑わいの拠点ができただことで回遊性の向上につながったと分析しています。

一方KPI「市から発信された情報がわかりやすいと感じる市民の割合」については未達成ですが、松江市公式LINEをリリースし、災害時などにおける情報発信の即時性・アクセス性を強化いたしました。さらに、今年7月には、松江市PRキャラクター「おまっちえ」をリリースし、先月には合併20周年式典を期に3D、いわゆる着ぐるみの「おまっちえ」も登場し、各イベントに登場できるようになりました。今後さまざまな場面で松江市のPRに活用してまいります。

「NEXT ACTION」としては「にぎわいのあるまちづくり～憩い・集い・楽しむ場所をソウゾ

ウする～」といたしました。

みずベテラスの利用開始やちゃぷちやぷ広場の整備、河川のオープン化により、松江の地域資源である「水辺」の活用を増やすことで賑わいを創出してまいります。

また、慢性的な運転士不足の中、一畑バスと松江市交通局が「共同経営計画」を策定することで両者の経営の効率化、交通サービスの利便性の向上を目指して取り組んでいるところです。加えて、自動運転バスの実証実験に取り組むなど新たな公共交通の先進的な導入に注力してまいります。

さらに、麻田委員より事前に子育て世代への広報に対するご意見をいただいておりますが、SNS とホームページの連携、子育て自主サークルとの連携等により一方的ではなく身近な広報に努めてまいります。

最後に「なかまづくり」です。

評価した KPI 3 項目、そのうち達成率 80% 以上は 2 項目です。

主な達成 KPI としては「圏域での外国人宿泊数」が挙げられ、前年比で約 3,000 人の増となりました。これは、米子-韓国・香港定期便の就航による外国人観光客の増加によるものと分析しています。先ほど申し上げたとおり、松江市における外国人宿泊数は目標値を達成していないので、この外国人観光客を松江にも誘客できるような取組みを行ってまいります。

一方、未達成の KPI 「圏域での国内観光客宿泊客数」については、NHK 連続ドラマ「ばけげ」の放送を契機に、圏域を周遊するコンテンツを造成するなど入込客数の増加を図ってまいります。

「NEXT ACTION」としては「海外（インド・台湾）との交流強化～各市の優位性を活かした取組みを図る～」といたしました。

台北市政府、サイクリング旅行企画会社 GIANT ADVENTURE などと連携しながら、台湾への継続的なプロモーションを実施しています。また先月、5 市で訪印し、MOU の更新とともにインドからのインセンティブ旅行の誘致などを行うこととしており、引き続きインバウンドの拡大に取り組めます。

### **議事(3)「令和6年度地方創生関係交付金事業の実施状況について」説明**

事業主体が松江単独のものについてピックアップしてご説明します。

「Ruby City MATSUE 2.0 推進事業」ですが、先ほど、総合計画の実施状況のご説明の際に触れたとおり、IT を活用した新たな製品やサービスのアイデアを創出するコンテストを立ち上げ、昨年度は市内外から 64 組の応募がありました。

「データを活用した地域内マネジメント体制（地域 DMO）の確立と観光地域づくり」では、松江観光協会にマーケティング機能を導入し、組織強化を図りました。

「人が集う松江の新たな日常を生み出すプロジェクト『旧日銀松江匠工房整備事業』」では、令和 6 年 10 月にカラコロ工房をリニューアルオープンしました。

事前に金山委員より「現状、期待したほどの賑わいの拠点になっていない。松江城からの導線も考えるべき」とのご意見をいただきました。さらなる集客を実現する工夫として、京店・南殿町など周辺の商店街と連携した「面的な」賑わいの創出の取組みや、中心市街地の回遊性の向上を図る電動トクトックやグリーンスローモビリティといった移動手段の検討を行ってまいります。

事務局からの説明は以上です。

## 田部会長

議事（１）～（３）について事務局からの説明が終わりましたが、委員の皆様からご意見・ご質問等ございませんか。

## 石飛委員

先ほど、３０歳以上で社会増であると報告がありましたが、理由は何か想定はありますか。

## 事務局（周藤政策企画課長）

私共の分析では、年々増加幅の方も広がっており、昨年度２０２３年１０月１日から２０２４年９月３０日までの増加幅は８５人まで広がっております。１つは子育て支援の充実、もう１つは、UIターンの促進ではないかと分析しております。以上です。

## 田部会長

よろしいでしょうか、他にございませんでしょうか。

## 竹田委員

誘客の説明の中で、県立美術館の北斎の話が出てこないと思っておりました。

県立美術館は、県所有のものではありますが、「北斎」の人気は世界的なものであり、島根県立美術館の北斎コレクションは、世界に誇れるものであると思いますので、県との連携や北斎を利活用したインバウンド・誘客等ができないものなののでしょうか。

## 事務局（周藤政策課長）

確かに県立美術館は県所有の建物と言っても、松江のまちを彩る１つでございます。今いただきましたご意見、具体的にインバウンドの魅力の１つとして発信できないか。北斎の所蔵についても担当部署に伝え、県・市一体となった魅力を伝えていけるよう努めてまいります。

## 田部会長

ありがとうございます。実際、そのとおりです。コレクションは常時見ることができません。海外向けのPRを中心に行っていただければと思います。

その他、ございますでしょうか。

## 鶴鶴 委員

地元の製品の製造及び販売をしております、基本的には観光業に携わっております。

ばけばけ効果で、弊社の土産品多数販売しておりますが、非常に好調で製造が追いついておりません。かなりの追い風効果になっていると、観光業に携わるものとして感じております。

また、宿泊税が松江市内で始まると思いますが、これに関しても市内の観光に関わる財政上から見れば追い風になると思います。

観光産業で見れば、KPI 達成率は高まるのではないかと思います。

1つ追加してもいいかと思いますが、観光も含めて、松江市の総合計画ではありますが、中海圏域で他市との連携がかなり増えていると思います。市単独のKPIも大事ですが、周辺の市町村と連携して、こんなことをして、それに対してこういう結果が出ていますということも、盛り込んでいいのではないかと思います。

### 事務局（周藤政策企画課長）

ばげばげの追い風のところで、私の方もお土産等を持っていく際に、多彩なラインナップで選択でき有難く思っております。

また、宿泊税もうまく活用して観光が進んでいくというご意見いただきまして、ありがとうございます。

圏域の方のKPI、本市の総合計画のところ3つだけとなっておりますけれども、圏域の方も計画を持っております。本市の総合計画にも含めた方が市民に伝わり一緒に頑張れるのではないかと、そのようなところも検討してまいりたいと思います。

### 田部会長

圏域に関しては、私から説明させていただきます。出雲・松江・安来・境港・米子の5市連携を行っております、中海・宍道湖・大山ブロック協議会です。5市町会の会長を上定市長が、ブロック協議会の会長は私がしています。今その横連携の事業をいろいろとやっております。

1つは8の字道路。これの建設に向けた要望、これに伴う経済的な根拠、企画、8の字道路を建設した時に大体350億の経済効果があります。それにプラスアルファ500億の圏益、これ5市で、500億のプラス経済効果として、合わせて850億の経済効果を出していくということで、これに対してエビデンスを確立したうえで、活用しております。

もう1つはインドです。先日、4市長と一緒にMOU経済協定を結んでまいりました。これはインドのケララ州のコチというところで、すでに現地のスポウティススパイス工場を、島根に誘致することに基本合意をしております。あとは、この圏域からどうエントリーするか、どういうビジネスをやっているかというように具体的に商談が始まっております。

ばげばげについては、上定市長と一緒にNHKに3年ぐらい通い、苦勞して、意図をもって引っ張ってまいりました。それに加えて、我々テレビ局では八雲のアニメを放映しております。これ、半分しかやっておりませんが、1万以上の方に視聴いただいております。月照寺もライトアップしております。

中浦食品さんは、上手に「どじょうすくいまんじゅう」を「耳なし芳一 耳まんじゅう」に応用された。このような工夫が良いなと思いました。市内の事業者の皆さんがもう少し乗ってくれば良いなと思います。

### 武部委員

私からは、人づくりの中のAIコンシェルジュの件でございます。

まず、社会像が30代が進んだということで、これ大変喜ばしいことだなと感じております。引続き、子育て施策についてはしっかり進めていただきたいと考えております。

その中でいわゆる児童福祉の分野では、このような技術が進んでおりますが、福祉全体をカバーできることが理想的だと考えております。

例えば、認知症の介護者、福祉サービスに関する相談、そういったことも24時間の体制で対応できる環境づくりというのは、市民サービスの向上・対応する相談援助従事者の負担の軽

減にも繋がります。今後は、子育てだけではなく、福祉全般、介護や障がいの分野でも、AI コンシェルジュの機能を高めていくことが必要だと思っております。令和9年度から第10期介護保険事業計画に入るということになると思います。DXの推進として盛り込むべきと考えておりますので、ご検討いただければと思います。

### 事務局（周藤政策企画課長）

ご意見ありがとうございます。

確かに、子ども子育ての方のDXによるデジタル化と、一方、こども家庭センターのアナログのきめ細かさの両方兼ね備えた子育て支援が出来ていると自負しておりますので、福祉の分野にも展開して、このDXの良さと、人と人との良さ、両方とも活かせるよう検討してまいりたいと思っております。担当部署の方に伝えさせていただきます。ありがとうございます。

### 田部会長

その他、いかがでございますでしょうか。

はい、松村委員どうぞ。

### 松村委員

山陰中央新報の松村でございます。

先ほど、ばけばけの効果というのは、現在進行形ということで進んでるんでしょうけれども、大阪・関西万博、松江市に対する効果というのは、今現在どのように分析されておられますでしょうか。

### 事務局（周藤政策企画課長）

ご質問ありがとうございます。

担当部署に、事前に大阪万博の効果について具体的な内容を聞き取りはおこなっておりませんでしたので、ポジティブな話に分析出来てはおりませんが、KPIの国内旅行者については他の都会地に比べて、満足いく結果には達していません。

普段なら大阪の方が松江に観光するタイミングがあったはずなのに、万博に行ってしまうことから、松江への誘客が遠のいたのではないかと分析が出ております。

大阪万博まで来たインバウンドの方が、足を延ばされたかどうかにつきましては、データがございませんので、担当部署に聞き取りを行いまして、会議後に報告させていただきます。

### 田部会長

おっしゃる通りでございます。

ばけばけ関連については、アイルランド館等で皆様との交流があり、首相も来ておられ、ある一定の効果はあったと思います。逆に関西に集まってしまい、松江まで流れてこなかったというのは、事実想像に難くないところかなと思います。

大阪に店を構えておりますが、万博中は駅周辺にもかかわらず、売上げが下がりました。あのスポットに集中して、万博は成功だったと思います。あと電車以外のところで、交通手段が無かったということでしょうか。

来年、2026年度には、ジェイキャス・エアウェイズという、新しい飛行機会社が米子空港に就航することになっております。関西空港から米子に来ますので、出雲空港の大阪便と、

両方で関西から引っ張ってまいります。後は電車等だと思いますので、その辺りもPRをやっ  
ていきたいと思っております。

## 上定市長

万博関連のトピックスとして、写真がありますのでお見せいたします。

万博には、3回行っておりますが、その内の2回はステージのイベントも含めてPRの機会  
をいただきました。

内閣府が主催している地方創生SDGsフェスという、1つのパビリオンがあり、そこに日  
本の自治体がブースを設けました。

コナミとタイアップし、桃太郎電鉄の駅をモチーフにしたパビリオンで、駅をめぐるような  
形で、各自治体のブースが並んでいます。松江市もそこに出展しました。

少し正確ではありませんが、全国50の自治体が出展しております。ばけばけは、まだ始ま  
ってはおりませんでした。完全にばけばけ推しで八重垣神社の鏡の池というのを人工的に再  
現しました。

さらに、松江城が国宝10周年なので、それを随分PRしました。

その結果、ブースに設置しているQRコード読み取ってもらった件数が、50ぐらいに出展  
していた自治体の中で、松江市は1位でした。

たくさんの方に興味を持ってQRコードの読み取りをしていただきました。

なので万博を活用して、関西圏域の方々が、多数押し寄せたということが一般的には言われ  
ますが、その方が次の行き先として、松江市に興味を持っていただけたと言えるのではないか  
と思います。

もう1つは、温泉ツーリズム推進協議会という全国組織があります。松江市は今、中国ブロ  
ックの代表を務めております。

全国の8つぐらいの温泉地と一緒にブースを出させていただいて、そこに玉造温泉の手湯  
と、松江しんじ湖温泉の足湯を持っていったりしましてそこでもかなりPRをすることができ  
ました。

効果までは計り知れませんが、ステージにも出演し、はるな愛さんと一緒に温泉のPRをす  
ることができ、機会としては活用できたかなと思っております。

## 田部会長

あと、あわせてばけばけが終わった後、どうするのか、といった声が結構あると思います。  
これに対しては、現在、インバウンドが基本的には80%が東京近郊、大阪と京都です。

このインバウンド訪日客は、東京に来てる関東の方は、大体北側に流していきます。大阪・  
京都に集まっている人たちは、瀬戸内に流していくというのが政府のプランになっておりま  
す。この瀬戸内や九州からどうやって引っ張ってくるかという、本日は言えませんが、具体  
的にもう動いてる案件が幾つもあります。要するに、いきなり山陰に来てくださって言って  
おり、これは結構、難しいです。

1つは、婦人公論さんとばけばけツアーをすることになったんですが、全然人が集まらない  
のです。やはり知名度が圧倒的に足りてないので、ばけばけが全国に浸透してないので、その  
辺りも強化していかないと、まだまだ山陰というだけで来ていただけるというのは、難しいな  
と実感しております。

## 石飛委員

観光協会は、組織強化を図るといってお話がありましたけれども、もう少し具体的にどういうことをされるのかお聞きかせ願いたい。

### 事務局（周藤政策企画課長）

ご質問ありがとうございます。

観光協会の方ですが、知見のある方を招き、本当に観光誘客に繋がるようなプロジェクトを立ててやっていくということです。マーケティング、プロモーション、あと、誘客の少ない2月・6月にどうするかということについて、戦略を立ててやっていくことです。それについて、財源で宿泊税を充ててまいりたいと考えております。

### 上定市長

観光協会はもともとは松江市役所の職員と嘱託職員でほぼ構成されておりました。もちろん、各旅館やホテル、温泉組合の皆さんとの結節点にはなっておりましたが、そこで企画立案をして新たな旅行商品を、例えば代理店に売っていく等が出来ておりませんでした。要は、行政でやっていたところに少しプラスアルファが入っていたという、レベルだったというのが言い訳になります。ですが今そもそもの観光協会のステータスを、DMO（デステイネーションマネジメントオーガニゼーション）と言いますが、その資格を取得すると、国から補助金を引っ張ってくることも自分でできるようになります。そういった主体性を持たせるにあたって、まだ市の職員が中心となってやっておりますけれども、先ほど課長が申し上げた通り、専門的に実際にそういった両方の業界の経験がある方を採用して、その方に主体的に勤務してもらえるように転換を図ろうとしているところです。そのための費用も当然必要になりますし、認知度、観光協会のそういった機能の認識を高めて、各旅行代理店や、地元の観光課、皆様と繋がることも必要になってきますので、そういった点についても、宿泊税も活用しながら進めていきます。

### 田部会長

その他、ございますでしょうか。

### 佐藤委員

先ほど、中海・宍道湖・大山圏域の話が出ておりましたが、安来の方に村田製作所の工場誘致等々の話があると思います。やはり今後このような工場立地等があった場合に松江市の立ち位置や役割分担といいますか、そういったものをある程度明確にする必要があるかと思えます。松江市・圏域ではこういったことを引き受けられますよ、については松江市に来ていただけるように働きかける必要があるかと思えます。それについて、もしお考えがあれば聞かせていただきたいというのが1点。

これは議論と少し違いますが、資料を拝見させていただきました。2030年までの数字で、例えば市有地の廃止のように、年々減少していく方が良いものは当然ありますので、数字としてはデータが動くのではなく、上がったたり下がったりするんじゃないかと思えます。できれば、数字がはっきりした方が良いものについては、具体的な数字のデータを2030年までのところで、これからの会議の中で出させていただくとありがたいと思っております。

### 田部会長

はい、ありがとうございます。

## 事務局（周藤政策企画課長）

失礼いたします。資料の建付けとして、別紙等に資料の数字の経過等を載せております。議論のところに上がっていない部分や、分かりにくい部分がございますので、精査しております。この長い30年までのスパンの中で、皆様に分析いただいた方が良いものについては引き続き精査し、資料に掲載するよう検討いたします。

圏域につきましては、5市の特徴を生かし、各市の役割分担も考慮していきたいと思っております。以上です。

## 田部会長

今回スマートインターが安来の料金所の手前のところに出来ます。これについては、長年我々経済界も行政と一緒に要望してきたことが確立され、そこに村田製作所さんが来られるということですよ。

大規模な工場がきますので、特別高圧電力をつくったり、いろいろ設置の工場を作るため、かなりの時間がかかると思っています。10年まではかからないと思っていますが、それぐらいの期間にはなりますので、それまで横連携をどうするのかということ、東出雲との連携、横連携。また、その関連で来られるホテルです。今、東出雲にはルートインが出来ておりますが、今までターゲットがなかった場所に、ホテルが建ち始めております。

今回、村田製作所の誘致が決まっただけで、ホテルが7月に完成しております。そういった外から引っ張ってくるのが、可能になってきます。これは安来市だけではなくて、東出雲が一番良いので。

あとは人手不足。今後関連がある外国人労働者をまとめて、そういうところも踏まえて東出雲と連携していきたいと思っております。市長、いかがでしょうか。

## 上定市長

安来との連携だけではなく、他の広域的な連携も含めてですが、圏域としての先ほどご質問ありましたが、圏域としての力で誘致を図ったり、観光も、結局出雲大社に行った人は、松江城も行くし、足立美術館も行きたいし、水木しげるロードも行きたいわけです。その魅力を全部合わせることによって相乗効果があり、そのやり方は多数あると思っております。安来に大企業が立地するというのに乗じて、サイドビジネスをうまく連携させ、先ほどの、佐藤委員からのご質問の趣旨というのを私が取り違えてるかもしれませんが、松江としてどういう強みがあって、そこに、例えば企業誘致しようとするときに、どういう角度からどうするのかというご質問だとすれば、例えば松江の場合、原子力発電所があります。それが今ポジティブに評価されているのが実は社会の世論としてありまして、アメリカなどでは原子力発電所のデータセンターを1つのエリアと一緒に作ることによって電力の安定供給、そして、たくさん電力を使う先ほどの高圧電線も含めてそういった設備があることで立地が進むという話も実際あります。

松江市はまだ確立はしておりませんが、そういったニーズが寄せられてるということはあると思います。データセンターに限らず、電力を大量に消費する型の産業については、まかなえるんじゃないかという期待感があるのが事実です。そういったところまで取り込んで、現在、川津インター付近の中尾地区というところの工業団地を8ヘクタール造成しております。

そういった強みを生かし、かつ圏域と連携することでさらにその力を高めていくといった形で取り組んでいければと思います。

## 田部会長

はい、ありがとうございます。それは大きな話だと思っております。  
もうちょっと時間がありますので、それを今から手を打っていきたいと思っております。  
その他、公募委員のお二人も、もしよろしかったらご発言ください。

## 舟木委員

どだいづくりの自動運転バスについて、お聞きしたいことがあります。  
私は、毎日大学までバスで通っていますが、バスの便数が少なく、少し不便だと感じていま  
す。  
そこで、私が実際に活用できるのは、いつ頃になるかというのをお聞きしたいです。

## 事務局（周藤政策企画課長）

ご質問ありがとうございます。自動運転バスの今後の計画についてなんですけれども、今、  
実証実験をしているのが、レベルⅡということで、運転手はいるんですけども、バスが自動的に  
動いている。お客さんもみんな、座っていなければならないというような、まだ計画最中でご  
ざいます。

計画といたしましては、これをレベルⅣ＝運転手さんがいなくても、バスが進むというよう  
なところにしていきたい。年度が定かでなくて、大変失礼な話なんですけれども、2年後のと  
ころで、運転手さんがいなくても進むというようなフェーズまで行かせていただきたいと思  
っています。

ですので、本当に実現するのは、もう少し先の話になっており、技術の進歩も進んでいくとは  
思いますけれど、もしかしたら舟木さんは卒業してしまうかもしれません。

## 上定市長

今月から試乗が出来ますので、乗ってください。実証実験を始めてるのは10月からで、レ  
ベルⅡといって運転手さんが乗っているものです。私も他の地域も含めて何度も乗車しており  
ます。

ただ、例えば路上駐車は宅配便が路上に車を止めて、人が上げ下ろしをしているところだ  
と、一旦必ず止まります。人がもう1回大丈夫ですっていうサインを送ってやらないと進むこ  
とはできません。

ただ少なくともレベルⅡでも、実証運行をやっておりますので乗っていただければ大体どんな  
ものがわかると思います。

速度もそこまで早くはないように見えて、実際、例えばアメリカの西海岸でタクシーの自動  
運転が始まっているんですけど、カーブとかだと、人が運転してたら、当然、若干ブレーキ踏  
んで緩めます。自動運転は、カメラで全てを認識しており、死角がないので、そのままのスピ  
ードでカーブに入ります。したがって、結果的にその目的地まで行くのに人力よりも、ずっと  
自動運転の方が早かったりするような利便性の高さを実感してるところがあります。

そういった時代はすぐに来ると思いますが、日本はとても保守的なので、安全性がしっかり  
確認出来たらだと思えます。レベルを高めていくためにも実証運行を多数行う必要があり、多  
くの人に乘っていただき、特に不便や何か懸念がないかということをも1個ずつ潰していく必要  
があるので、そのためにも試乗会を今月から行っていきます。現在、JR松江駅からテクノアーク  
しまねまで行っており、島根大学や附属義務教育学校があるところ、総合体育館もありま

す。いわゆる目抜き通りと呼ばれるところで、通勤・通学で利用されてるところを運行しますので、ぜひ舟木さんの感想を聞かせていただきたいと思います。

### 田部会長

この間、国土交通省の担当の課長さんとの話なんですが、以前からその辺の機運がありました。国の最終的な判断が必要であります、そこがクリアされれば技術的な問題は対応もできているので、あと保険と警察対応のところクリアされれば、多分できるようになるので、もしかしたら、急転直下来年ぐらいになるみたいな話もあり得ることなんです。

今、タクシーやバスの問題 特に地方の問題が全国的にありまして、そんな声が多数国に寄せられていますので、確実になると思います。

### 三代委員

関係人口にまつわるイベントや交流会、講演会等に参加した人数に対して、KPI が40点とかなり低いのではないかと考えております。その中で、出身学生との繋がる創出事業っていうところ、私も大学生になってから、たびたび参加させていただいているのですが、やはり良いイベント、特に何かまち歩きイベントとかで、例えば遊覧船に乗ってみたり、良いものはありますが、やはり学生の取りあいという部分で、参加人数が少ないなと感じております。出身学生とのつながる創出事業で、毎年変化を加えながら、今年はどのような工夫をしているのかというところ。

あとは、デジタル田園都市国家構想交付金を使われていると思います。これを使いながら、どのような工夫をされ、どこの部分で交付金が使われているのか、という部分を教えていただきたいです。

### 事務局（周藤政策企画課長）

ご質問いただきありがとうございます。

関係人口のところなんですけれども、デジタル田園都市国家交付金、人口を核とした新たな人づくり人の流れづくりプロジェクトということで、島根県と松江市と浜田市、益田市、大田市、江津市、雲南市、奥出雲町、飯南町、川本町、美郷町と島根県全域で交付金を取っていき、高校と地域の魅力を結ぶような、魅力化のコンソーシアムを作っております。

松江市といたしましては、コンソーシアムのマネージャーを軸として、学校と県が協力しながら学校と地域の繋がりを作っていくような方向としています。今年度のイベントがどのように変わったか、松江学生祭が同じなのか、どのぐらいバージョンアップしてるのか、若者に刺さるようになっているのかっていうところをデータ上持っておりませんので、わかりましたら、また後日情報を伝えさせていただきます。

### 田部会長

はい、ありがとうございます。その他ございますでしょうか。

### 宮下委員

松江市のこれからのあるべき姿というところで、ひとづくりの子育て支援のことが記載してありますが、基本的には親支援になるのかと思いますが、そのあとに子供の育ち、若者たちの育ち、こども支援・若者支援が本来どうなっているのか、お聞かせください。

## 事務局（周藤政策企画課長）

ご質問ありがとうございます。

親支援ではなく、こどもの目線に立ったような計画、という意味でしょうか。

## 宮下委員

こどもの育ち、若者の育ちをサポートするような支援です。

## 事務局（周藤政策企画課長）

確かに、国としましても「こどもまんなか」ということで、松江市も「こどもまんなか」の計画を打ち出しております。

例えば、こどもの「子」は誰にでも分かるようにひらがなで、ということをやっております。確かに親を支援することで、こどもに繋がるっていう事業は多数おこなっておりますが、こどもに直接働きかけるところにつきましては、私の不勉強もございまして具体的に申し上げることがございません。申し訳ございません。

## 上定市長

11月19日を子育ての日と定めております。

島根県立大学さんで、ファミリーイベントをさせていただいております。当然親御さんが連れていらっしゃるんですけど、子供が自立的にいろいろ遊べるような仕組みを入れておりまして、それこそ県立大学の学生の皆さんにも読み聞かせをしていただいたり、生け花教室をしている。またそれを写真館の方にも出展をいただいて、生け花だったり、こどもの写真を撮ってもらうなど、お子さんに自由に選んでいただき、いろんなイベントを楽しんでもらう仕組みづくりをしております。

デジタルとアナログの両方を使い、親御さんを支援しておりますが、アナログの方で、こども家庭センターを2023年の4月に設置しました。2024年4月に国がその設置を努力義務化としておりますが、それよりも1年早く設置しております。

そのセンターでは、こどもからの相談もそのまま受けられます。したがって、こどもが自分はヤングケアラーだと気づくのは難しいのですが、少なくとも生活するうえで何か困ったことがあれば、学校にはもちろん相談しますが、先生に相談しづらい子が、実際にこども家庭センターを訪れて相談に来ている事例もあります。それにより、こどもの貧困などが見付き、結果的に深刻化する事を防ぐことができたといったことがあります。

もう1つは、最近やはり不登校のこどもが増えております。

この不登校という言葉そのまま使い続けていいのかどうかという議論や、学校に行くことが是なのかどうかという少し哲学的な議論もありますが、そんななかで、多様な選択肢の中からこども自身が選択できるような仕組みを用意しております。

昨年度より教育委員会の方で、試行も含めて「ボタンねっと」という、学校に行っていないこどもがオンラインで授業を受けられる仕組みを作りました。私も授業に登壇したことがありますが、楽しいイベントをしながら、当然、算数や国語とか授業についても触れさせて、それで社会と繋がってもらいます。まずは、関わりを持つことが重要だと考え、事業を実施しています。

お子さんに対しての直接の支援というのは、やはり特に自我が芽生えて、自分でいろんなことやりたいと思うこどもたちが主体的に動けるような仕組みというのを行政で用意する必要があります。今後ご意見をお聞かせいただければ幸いですよう、お願いいたします。

## 松浦理事

先ほどの宮下委員からのご質問ですが少し補足させていただきます。まずこどもへのダイレクト支援についてですが、市内の小・中学生を中心として、歴史等をきちんと学んでいただくために歴史館へ行き松江の歴史を学ぶイベントをおこなっています。

また、職業体験イベント「MATSUE WAKU WORK」と言って、中学2年生全員を対象として、市内の企業に協力をいただき、いろんな職種・どんな仕事があるか・どういった会社があるか、といったことを学んでもらういわゆる体験型の支援を行っております。

それと、若者支援。先ほど三代委員がおっしゃられた学生祭は、学生の皆さんがご自身で企画立案し、資金調達しイベントを実行する、という体験型イベントであり、このイベントの支援をおこなっています。また、TSKさんが中心にされている「みらチャレ」です。将来に向かって、若者が夢を実現するための構想を練るためのイベントを実施しています。

また松江市がやらせていただいております「ミライソウゾウ会議」は、若者が自分のやりたいことを見つけ、将来に向かって準備をどのようにすべきかを学びます。様々なイベントを通じて支援をさせていただきます。以上です。

## 田部会長

ありがとうございます。最後にお一人だけ、いかがでしょうか。どうぞ。

## 竹田委員

行政が直接こども、若者っていうその一人一人の育ちに関わるっていうのは、なかなか難しい面もあるかと思いますが、民間にも子どものため・若者のために多くの活動をしている団体がいるというお話をさせていただきます。こういう冊子を配布させていただきました。「子どもアートDay」といいます。

2019年に企画を始めまして、2022、23、25年と県民会館全館を使い、こどものために、文化活動しているあらゆる団体が力を結集して40団体以上でイベントをさせていただきました。こども自身の「楽しむ・遊ぶ・作る」ような力を引き出したいというイベントです。県民会館がこの冬から改修に入ることをきっかけに、来年度は6月14日にプラバホールで開催することが決まっております。松江市に共催をいただくことも決定しています。

これを機会に、名義的な共催ではなく、ぜひ松江市の施策を子育て家庭にこどもたちにも伝えていくこと、それから、松江市が行っているこどもに関わる施策も、お伝えする機会になるので、こども政策課・こども家庭支援課さんと協議を始めているところです。これまでの実績も島根大学や島根県立大学の学生さんにもたくさん参加してもらい、学生企画であったり、中学生高校生の企画などもあり、40以上のプログラムが開催されています。

ぜひ皆さんには視察に来ていただきたいと思います。市長には、毎年来ていただきありがとうございます。

これまで、経済や誘客の話が多かったのですが、全然お金にならない、このような事業を支えている市民団体がいるということも大事にしていきたいと思っております。新しいものを生み出すことも大切ですが、すでにある人々の「力」や「モノ」であったり、環境分野も子育て分野も、ずっと頑張ってきてる人たちがいます。経済は回せませんが、そういう活動もぜひ注目していただければと思いますのでよろしく申し上げます。以上です。

## 田部会長

はい、ありがとうございました。

今日ご発言のなかった委員の皆様も、次回は是非ご発言いただきたいと思いますし、冒頭申し上げました、この2030の総合計画を書き換えられるような企画や発言をしていただきたいと思っております。

この達成率が低いとか、どうなっているのか、というのが一番大事なのですが、そういったご意見に具体的にこのように変えた方がいいのではないかな等のご意見を、是非次回はいただきたいと思っております。

「ここを変えて欲しい」「これ追加して欲しい」等、「これじゃ足りない」等をご進言いただけると大変ありがたいと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

最後に、市長 一言お願いします。

## 上定市長

一番最初に、石飛委員にご質問いただいた30代の社会像について、勝手ながら私の分析ではございますが、説明いたします。

この地に生まれ育ったけれども、自分がやりたいことは別にあつたんで、県外に出られた方という方々が、結構30代で戻ってきていらっしゃるんです。

その時にはもう結婚されて、配偶者の方と一緒に戻ってきていらっしゃる、Uターン・Iターンのケースが多いんです。

その理由は、こどもが出来て、子育て環境が充実していること。子育て環境の充実には、親御さんが近くに住んでおられ、いつでも預けられる。あるいは、家を建てたい、車を2台持ちたいなど、いろんな理由からこどもをもうけられた方が戻ってくるケースが多くて、松江にゆかりのない方が松江市役所に職を求めて来られるケースも増えているという状況もあります。

要はそこで、2人目・3人目のこどもを持とうか、と考えていただく世代ですので、30代に訴求できているのは非常に大きなことだと思っております。定住、移住による人口減少の歯止めにあたるため、地方都市においては、皆さん頭が痛いところですが、そういった課題に対応する、入口が少し見えているのかなということで、今後も取り組んでまいります。

## 田部会長

ありがとうございます。

では、続いて報告事項をお願いいたします。

## 9. 報告

### 事務局（周藤政策企画課長）

#### （1）「令和6年度物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の効果検証について」

議事同様に、会場前方のスライドまたはタブレットの「議事資料」をご覧ください。

資料4をご覧ください。

「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」は、エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を受けた生活者や事業者の支援を実施するもので、令和6年度は物価高騰の負担が大きい低所得世帯をはじめ、生活者や事業者を支援するため15事業に取り組み、交付金充当額は28億1,072万7千円でした。

IV推奨事業メニュー分では、生活者支援として学校給食費値上げ部分の半額助成、事業者支援として省エネ機器更新費用の補助、保育所給食用材料費上昇分についての補助を行い、

物価高騰の負担軽減を図りました。

## (2) 「松江市のSDGs推進の現状について」

資料5をご覧ください。

松江市は令和5（2023）年5月にSDGs未来都市となり、その後8月に計画を策定し、実行にあたっているところです。

令和5～7（2023～2025）年度は、「SDGsを市内に浸透・定着させる」ということを目標に、市民のみなさんにSDGsの概念や内容を共有するとともに、達成に向けた推進体制を構築する期間に位置づけて取り組んでいます。

それでは、「進捗の状況」についてご報告いたします。進捗管理の評価方法は3つ、

1つ目は数値目標、いわゆるKPIによる評価です。主に総合計画のKPIを活用し、45の指標を「経済」「社会」「環境」の三側面から整理しております。三側面の関係をより強く結びつける「統合的事業」は、順調に推移している項目が多く、引き続き2030年のあるべき姿の達成に向けて事業を推進してまいります。

2つ目は、自治体版SDGs診断ツール「T SUMUG I @」により、市内部の「SDGsの取組体制」と「ゴールへの取組み状況」のセルフチェックを行い、見える化しています。SDGsに取り組むための実施体制を5項目で評価するフレームワーク診断では、「SDGsの理解」は、全職員研修の実施を要因に、スコアが全般的に上昇し、本市全体でSDGsの理解は進みました。一方で、15部署では下降しており、内容、頻度、対面実施など開催方法について改善を行ったうえで、引き続き全職員研修を実施してまいります。

3つ目は、市民アンケートです。SDGsに関する認知度や取り組みの状況などについて、総合計画の「まちづくりアンケート」にSDGsに関する設問を盛り込んで、市民の皆様の興味や関心の動向を把握するよう努めております。

事前に金山委員より「SDGsに『取り組むつもりはない』と回答した人の理由の半数が『何をしたいかわからない』というのは、SDGsがごく身近な事柄であり、日々のささやかな活動の中にあるということについて理解がされていないからではないのか。何かしていても、それをSDGsと捉えていないだけではないかという気もする」とご意見をいただきました。

本市としても金山委員のご意見のとおり、SDGsを難しく考えすぎてしまい、自分ごと化しにくい方が依然として多くいらっしゃるのではないかと考えております。日ごろから取り組んでいることがSDGsに直結していくことをご認識いただき、「こういうことでいいんだ」「自分たちも役に立っているんだ」と意識しながら気軽に取り組んでいただけるよう周知・啓発に努めてまいります。

「SDGsに今後取り組みたい人」、「何をしたいかわからない人」に向け、出前事業、啓発イベント、SNSなどを活用して、知らない方への普及啓発を進め、取り組みたいという方には、身近にできるSDGsの取組みなどをお示しし、SDGsの浸透・定着の深化を図ってまいります。来年2月にはSDGsフェスティバルを行う予定にしております。

令和6年度の主な取組みについては、お手元の資料に掲載しておりますので、ご覧ください。説明は以上です。

**田部会長**

ありがとうございます。

これに関して、ご質問等ございますでしょうか。

今回はこの辺りも含めて、事務局の説明は15分以内でお願いします。協議時間は1時間10分確保していただくようお願いします。

時間に余裕がありますので、もう1つご質問等いかがでしょうか。

## 山中委員

1年前にマイナンバーカードが保険証として使えるという事でしたが、医療機関・薬局で読み取り装置が設置できないと、非常にお叱りを受けました。いろいろ対応したのですが、やはり難しいところがありました。

ただ、現在、すべての医療機関・薬局には、マイナンバーカードの読み取り装置が使用されています。マイナンバーカードを保険証として利用されている方は大体40%ぐらいです。マイナンバーカードの所有率は80数%になっています。昨年この会議では、考えられなかったことができています。

本日も自動運転、AIの話がありましたが、ものすごい勢いで、デジタルが進歩しております。やはり松江市としても、取り組むべき課題があるだろうと思っており、島根県情報産業協会としましても、様々な形で取り組んできたいと思っております。ぜひ、松江市が様々なデジタル、DX、AI等で、豊かになることを望んでおります。協力は惜しみませんので、よろしく願いいたします。

## 田部会長

はい、惜しまないようお願いします。

### 10 その他

#### 事務局（浅野政策係長）

事務局から先ほど会議の中でもございました、ミライソウゾウ会議についてお知らせいたします。

ミライソウゾウ会議は、令和4年度から毎年実施している本市の事業でございます。

現在まで、参加者は延べ210人となっております。松江市総合計画の将来像である「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」の創造に向けて、若者のまちづくりへの関心を高めるとともに、年代を超えた繋がりづくりと実践ノウハウを学ぶ機会を提供しております。

また、若者の豊かな発想とユニークな着眼からの斬新なアイデアと提案を受けて、市政に反映するなど、若者によるまちづくりを実現していくことを目的としています。

そのために講師を招き、セミナー・ワークショップを開催して参加者の夢へのチャレンジを応援しているところでございます。

このミライソウゾウ会議に参加された後、実際にカフェや宿泊施設の開業、イベント開催などをされた参加者もおられます。

本年度は全5回のカリキュラムを組んでおまして、第5回目は最終報告会・発表会ということになっております。日時は令和8年1月24日土曜日、歴史館での開催を予定しております。

最終報告会は、委員の皆さんも参加可能でございますので、決まり次第改めてご連絡させていただきます。

もしよろしければ、ご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

事務局からは以上です。

## **田部会長**

はい、ありがとうございます。

では、以上ですべて終了しましたので、お返しいたします。

## **11 閉会**

### **事務局（浅野政策係長）**

はい。

田部会長、円滑な議事進行ありがとうございました。

また、委員の皆様には貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

それではこれもちまして、令和7年度第1回松江市総合計画審議会を閉会いたします。

ありがとうございました。

以上